

續初篋

言水撰

特別

~5

6059



八五
6059



羅ハ名ハ卯モシトモ
行ヒテ了イハク海
也ハハルヤ夷言子モ
事也前ニヤハルハ事
ハハルハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハ

56-4142

いふはあはれなるもの
は誓ひの事なるもの
あはれなるもの
祝はれぬもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの

あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの
あはれなるもの

池西氏
言水
述

元禄十三庚

三月の

卯

月

日

始

三

一法乃柳ささよシヨク續牡丹

夷言

汝トとト如く氣ニ水出ル衣言水

河原の貝風法法ドシ純ニ矣ト今

方符ト一ト名月のト矣

関ト当ト酒トリト寝トのト矣ト今

作法ト極トハト唯ト様ト者トシト水

東山に巻めく

茶の巻や浪も極むわらん水言水

東川

我系はむらた
あふぬや

肩あふ涼とさ清うの都おれ全

聖護院に表

娘りや女若矢永り妹の夢全

南禅浴室

雨の白い 驟カキなり風呂揚り全

山崎んむと井原里よ吟め
折ゆぬきやうらわあきの
氣にしらぬ

井原結玉ゆらう因りお侍くれ全

いりや矢敷の場ニ

矢敷射ニ若危トらふらりけり全

晴きの澤

石の多立と秋鴨のあはれ船一々

洛西

瀧急根子ヤ深は多しあ祭夜に面今

旅り

文敏の馬の趣一々秋輝流月今

世人目言一々独吟すかき母

あはれ子に六甲詔八十

口下り文のしそくあはれ流月人今

江と云床に南なり一々山橋 鳥玉

風の聲一々吹く湖の上 言水

脛搦 舟正月乃嬰あき今

常清の言氏にゆく流れ玉

我知りて思ふことくも益る今

桂男の顔もあはれ氷

本苑の寝とほせをたづねし約の室 今
 百里の舟下りの道は五千里 元
 角してた冠のあまをたづねし 今
 朽と色をたづねし 偶人乃 秋水 カタシロ
 血は石をそとれし 井をたづねし 今
 蒼乃危をたづねし 藪をたづねし 今
 猿もくぬ日ハ山茶をたづねし 今

師の悪くは杖をたづねし 水
 海も鳥もたづねし 都島 今
 氷もたづねし 和をたづねし 今
 月もたづねし 所乃 留曲と 今 クセ
 桃もたづねし 多来と 山伏も 今 水
 釋迦の行拂も 法を 今 テカタ
 老くたづねし 約を 今 庭の井 元

玉城の比やうらね 喜流色元
才れ鼓より 磨蕨いふ居ん 水

伊丹

佛兄

うき業れ業に刈りあふまふか
も 皆ト冬の和紙かろ水 言水
三ヶ月の初としの光一して 今
二百十日と一事業は仕立ふ兄
肥ス腸子の小鶏様さるるの端今
さよまゆにまふのまふまふまふ
今

いらくと登り榎火をうらまふ
あまのりあま又乳^チのあま
疵^{ツヨク}日ぬを待丹の星りあま
宗の下こころ色も蚊の物見
涼こほは寺まこほ寺まかい
起さなるまゝ食喰いぬいの
あまのくに月乃のあま見あま

あまのくにあま事多あま
あまあまのあま
あまあまのあま

兄
兄

室暖よ葉を編む人^ハ透^ニ

水糺

池^ノ風^ヲ流^シ冬^ノ二^月水

入^ル湖^ニ^{ウミ}嗽^{クチスケ}多^クも^モ話^ハり^シ多^クも^モ今

高く^ク博^ク多^ク岩^トも^モ物^ノ糞^ニ形

瓶^ニ居^ル多^ク松^ヲ伐^シと^ハ貴^ク抱^ク今

桂^ノ照^ル多^クも^モ青^ノの^鞠蹴^ルよ^ク今

越の秋俵よにり 表 荻 葉
律も 砂と 砂世ハ 露の 梅 全
さひー 氏 昭々 船を 獲り 中十カ 水
佛とくひ 多 獲キー 網 全
手 考う 留れと 決り どの 文字 掬
並スガり 漚と 成ー 傾 塚 全
あひかり 矢 救 足に 掬く 嵐と
水

旭 舟 石うの 夕ふしの 舟 全
也の 船 舟 師 老の 月 舟 風 舟 全
去り 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全
志 賀乃 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全
化 粧 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全
陽に 浮く 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全
ちい 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全

舟 上

千人九百ありあじ 官軍 水
五日をりしとてぬる統子今
卯屯の洞むゝ雷はまじりぬ
霧うけ繞ゝ屯名のとま今
又うらゝぬけぬりう 岳谷尾水
風の吹ハ 半一と吼きり今
神ぞうり北汁の賜り言はれぬ

離宮乃清士に高き麦は龍い今
半乃舞せともちも舞めて水
京ト二人は虚言と名のふ今
賀茂川の法スは常なる茶屋立どぬ
救ふぬとるなり 病患は忘れ今
内ぬらる雲 あらけり一被水
お紫をけりしとてこまぬ

包井に筆とりうりく花盤今
毫 君より寝ていふまゝの筆櫃 水

現く亮
似桂

雲より小窓を透りての曲り
友呼 行とこ本如し結果 言泉
いよく入日此のあうくみ多 雲
洲く草 鞋より右左はく桂
涼くこよ衰ハ水海 おろく為水
月のうらまに 蚊 極くはる 雲

口惜也人の希湯^{ツリ}の口きれく 桂
娘^メのやこ結^{ムス}おま^マりとせん 水
文^{フミ}清^{スミ}く^クは^ハ多^タむ^ム多^タの^ノ事^{コト}成^{ナリ}聚^ル
絮^コ袋^{フクロ}も破^ツつ^クみ^ミ十^ト周^{シユ}服^{フク}桂^{ケイ}
面^{オモ}新^ニ清^{スミ}怪^カ結^{ムス}り^リ 雅^ヤ貞^{チン}水^{スイ}
薄^{ウソ}も^モ是^{コト}は^ハ 宿^{シヨク}乃^ノど^トり^リ付^ツ聚^ル
志^シ清^{スミ}の^ノ月^{ツキ}さ^サう^ウて^テも^モ 松^{マツ}の^ノ女子^{コノナ}は^ハく^ク 桂^{ケイ}

鉄^{テツ}汁^{ジュ}原^{ハラ}紙^シ 袖^{スエ}着^キけ^ケる^ル 派^ハ水^{スイ}
垂^ツ下^ゲして^{シテ}志^シる^ルの^ノ心^{ココロ}清^{スミ}有^{アル}為^{タメ}に^ニ 聚^ル
序^{ホト}長^{ナガ}清^{スミ}の^ノ日^ヒく^ク 記^キの^ノ表^{ウラ} 桂^{ケイ}
清^{スミ}負^{オシ}み^ミ 関^セせ^セよ^ヨう^ウ 其^{ソノ}花^{ハナ}の^ノ苗^ネ 水^{スイ}
草^{クサ}も^モら^ラ 起^ツる^ル 音^ネの^ノ解^{トク} 其^{ソノ}聚^ル
落^{オチ}南^{ミナミ}の^ノ麻^{アサ}の^ノ女^メ史^シ清^{スミ}ん^ンわ^ワて 桂^{ケイ}
温^{ユク}身^ミ一^{ヒト}日^{ヒト}ハ^ハ 經^{キヨウ}氏^シ鳴^ネの^ノ 龍^{リウ} 水^{スイ}

行の如く今と暮に又むいふ
月詠おししの菫花灯 露 桂
若む瓜牡丹の親と笑ひあん水
近ひくとい人がらやら 如 翠

略

遠山

妹の衣胸もよみぬいひ
夕チシゴ河に釣瓶 律の音外言
里ズ松イキ胡イキ芋イキと風は程もらん
さうりらもさ月乃歩もら山
矢きけいの中もあたら馬は凡全
菫むとさしとさしとさし清水 水

盗^シひて迷ふ 佛の指とあはれ 今
唯^レ片^レ啄^レこ^レわ^レ多^レ河^レう^レ又^レ鶴^レ山
い^レ神^レい^レに^レ編^レつ^レく^レ是^レ我^レ被^レ今
女神 恋^レる^レ志^レる^レ勢 様^{イナクニ}水
國^レの^レ山^レ院^レの^レま^レま^レゆ^レる^レ山^レみ^レを^レ多^レ今
武^レ下^レ海^レの^レう^レり^レ人^レの^レ人^レ山
炎^レす^レる^レ日^レ 曆^レの^レ沙^レ法^レの^レり^レ今

約教の市 夕^レ魚^レの^レ際^レ水
次^レ磨^レれ^レ月^レの^レ名^レの^レ浦^レの^レ物^レ相^レ今
舟^レの^レ志^レり^レの^レ事^レの^レ水^レ尾^レ火^レ山
津^レの^レ傾^レ城^レの^レ花^レ水
こ^レれ^レの^レ指^レの^レ世^レの^レ色^レ山
塚^レの^レ碑^レの^レ立^レの^レ今
種^レの^レ水^レの^レ膝^レの^レ水

うけりてく志賀ハ新子花をき水
新にしは夢わらね 鐘山
いっけり新乃其の流をみ 全
ゆり寝多あふと首垂れ水
發とぬ我ん毒新 我う美全
情何矢背ト一の風風呂山
折てや戸 籬乃葉もほくらあ全

舎人多煤の跡あり 水
三月月何後ありて 独ヒトツハシ梁全
宿とあ 家もろうき入 挽 山
庭をめぐり合羽の泥ヨシのせき 全
いり念佛 父母日の息 水
蚊のせいの蒲に新しき情をい 全
ゆり時計のきりこし 山

柴の戸を裂く如くぬい糸を巻く
五架の芽を煮ての老の若くの水

沙門 友元

老乃極也思極作新水の果

固^{コト}水^{ミヅ}片^{カタ}有^ア合^カと 雁^ガ言^{コト}水^{ミヅ}

名月もあはれは氣の分ちて今

硯^{スズリ}の池^{イケ}結^{ムス}縁^{ヅミ}と本^{モト}堂^{ドウ}書^{カキ}元

枝^エり^リと^ト堂^{ドウ}の^ノさ^サら^ラ新^ニ今

蓮^{レン}の^ノく^ク居^イる^ル河^カの^ノ汗^アは^ハ水^{ミヅ}

頑城の方より死ねさうして全
 志せむとゆるむいふ路に帯元
 色束の首の髪を傳へて全
 侍やむ路にけいの 後力水
 殺してハホツ標ラウ殿ゴシはる 朝全
 拂へさうとて 尊れ種かきと元
 茶の毒にさうさぬ 無一人全

乃きへせはし富たの道いふ水
 とはなる半匹鳥は眺め安ら全
 司乃とて身の縁い行元
 月は花舟船のた刀流て全
 柳とゆとり 測はのそり水
 昔河のまよ紐又ハ據れ全
 嵐乃 糸板の管さる元

法より入蒲を穿てて不被の空今
首捕またよりあつて身はくすす將水
祥または地蔵不動の心和とよ今
まはせくあはれ涙の屑元
りしきは右も左も五芒花本比今
ぬ私居名より考らして清水
あはれ人の穢とつひより呼ぶ鳥全

連見うしきたりうとくれ空元
申く空猫芥の祥興全
昼ハ揚く袖く花まの月水
かこはあはれよりを所友袴元
影ををれ空武士のまを全
本念くくくくく佛魚水
清水と並く滝波あり元

おらわあまの道へあまの道へあまの道へ
利休を先と志く乃後 今

竹婦人橋よ毒結ゆゆのさき

蘇行

いと一重りり夏之瘦乃衣言水

楊貴れ淡と紅級わわと紅夕今

^{Eゲリ}蒲揚くも月君との肩竹

雪のあか律笈に充^{アツ}る後今

さうふれ急ハ新流 乃後 水

鹿郡

産

繩細ワリ此腐ワリ如ワリ之ワリ其ワリ梨ワリ乃ワリ蘇ワリ

多ワリ之ワリ蛙ワリ行ワリ草ワリ一ワリのワリ下ワリ菓ワリ

二月ワリのワリ廣ワリさワリ以ワリ京ワリ法ワリ為ワリてワリ今ワリ

多ワリいワリはワリるワリとワリはワリあワリらワリけワリるワリ保ワリ没ワリ

此ワリ秋ワリ之ワリ寝ワリてワリ油ワリ火ワリをワリ背ワリきワリ今ワリ

満ワリりワリ月ワリ冬ワリ菓ワリ乃ワリ味ワリ水ワリ

あつとくをたのむといふ初風全
人多くあつとくをたのむ初風全
うらむて命にまゝ無色の歌全
今でも神の女男 崇アキマ 在マ全
入道のまゝまゝ行て全
川の水 鶴よりの岸の全
凌ノリ 背セも 萩ハギの 湯ユとあつとく水

猶ほまゝ川 夢う 程りも全
尼寺のまゝと 進マシむのうぬ全
鱈のあゆみ 猶ほまゝ全
あさひまゆり 星スバルの 萩ハギの 萩ハギ全
まゆり 萩ハギの 萩ハギ全

利山釋
如水

斜山里て 鷗もあはれ 秋は過ぎ

身の本町のとぬ 風の中 一言水

山の子と 蟹の池の 活て 今

峯動く 成月よ 大きき 一也

羨吟れ 兎考の 臨の 何為 世 今

蚊の 鼻より 紅煉の 夕くら 言

律れ氣に物くらを出は独酒今

急よりいふわし落る 雷公也

物らつるを楠老果く半石今

南門いまこころ悲しと言

涼しきよ片肌を皮より裸今

くみさる酒下り竹の跡見也

在中の急かり架一味今

欽喜の糸えぬく好は言

趣知と縁どすし生れ来て今

巨海のこぼれよこはる名は星也

月ハ肉花ハ初ぬと考まれ今

禪師のこころに鷺と琴川今

和州郡山
笑言

さうぢやせりあ大柱れさうよ招

きりよの爰取念は 早 嘆言に

我國のさうはゆのさう 遊ばさる 今

ゆはすきは氣のつらさ 水 矣

月れ船屋にさうまゝく 眞とてを 今

麒麟とえさや 秋の考と 水

ウ

若くは木の葉も踏破いどこの出
^{シラウ} 翁の姿も 舟より舟のまゝく 儒矣
^{ラトロフ} 口ゆくも 魚の姿も 世の習い
 留まみなく 葉をまじり 筑波松崎水
 逆も流る 水乃河にれト今
 眠り 鵬乃羽をききに 笑矣
 兼て ちりて ちりや 蛇の力今

名

海をそとに 野を其れ 棚今
 賣たうまの ちりちり 橋 雑水
 合羽 千とせとく 月夜まの 歌今
 おせ ちりく ちり ちり 素引 巻 延 今
 感状 千の 野 蛙 鳴 井 戸 笑 今
 去ぬ ちり ちり ちり ちり 石の 田 今

略ス

礪山

可英

冬 此れ陽下 冬 社丹

金 莫 亦 氏 喝 く 藻 隠 言 水

起 虫 子 鬚 小 帝 子 也 衣 裏 也 今

今 一 日 氏 ぬ と む 結 英

冬 今 人 の 奇 に 味 小 衣 也 筋 今

冬 今 草 也 何 ち 行 か 笑 い 水

可 二八

湖心
湖水

知ることして霜清味待き葉の

採イガ井の賜も雨さ小き只言水

信滄水信とさうも松の今

とらま思ぬをき新終日湖

空のや月より中さり詩の今

紫に心や海よ葉と葉の水

湖 二十九

南都

温水

五月廿七日 比叡社 續きく 秋意あり

花まの ^{ラミ} 松乃 極品之水

壹瓶の枕 ^{シイラ} 簾 尾せかりて 今

續てゆき 名月の舟 港

新室や 焙りし 糸巻 待全

孫純く 白楨の 竜水

風^ウの追ふ^ウ 鷗^{シト}乃^ウく^ウれ^ウ今^ウ水
人の人は人の目^ウに^ウぬ^ウむ^ウ態^ウ法^ウ
清濁^ウ氷^ウ情^ウの中^ウ 割^ウて^ウ今^ウ
あやめ^ウた^ウぬ^ウい^ウ鴻^ウ原^ウ乃^ウ負^ウ水^ウ
何^ウ云^ウ酒^ウの^ウ色^ウこ^ウり^ウ按^ウ摩^ウ永^ウ今^ウ
神^ウとい^ウい^ウの^ウら^ウ新^ウ聖^ウ 天^ウに^ウ供^ウ酒^ウ法^ウ
飲^ウみ^ウを^ウ受^ウ氣^ウい^ウあ^ウり^ウ名^ウの^ウ約^ウ絶^ウ今^ウ

色^ミと^ミい^ミる^ミ今^ミに^ミ埋^ミも^ミ夕^ミ夢^ミ今^ミ
妹^ミ涼^ミと^ミ底^ミ根^ミく^ミく^ミ人^ミの^ミ心^ミい^ミて^ミ水^ミ
暴^ミ風^ミ片^ミ尋^ミぬ^ミ三^ミヶ^ミ月^ミに^ミ更^ミ今^ミ
花^ミに^ミ暖^ミ紙^ミ掩^ミ松^ミ茸^ミま^ミの^ミ事^ミ 湛^ミ
園^ミと^ミは^ミ釋^ミ 也^ミと^ミも^ミ自^ミら^ミる^ミ 水^ミ
他^ミ也^ミ

南郡

龍淵

所_レ以_レ志_レんて後_レ來_レ此_レ地_レ牡丹_ノ池

鴨_ノ啼_レ一_レく_レ官_ノ様_ノ池_ノ言_レ水

兎_ノ造_レ新_レ瓦_レ以_レ清_レ也_レ去_レと_レり_レ多_レ今

夢_ノ不_レ日_レり_レく_レ之_レ夢_ノ一_レハ_レ羽_ノ淵

小_ノ蘇_ノ原_ノ待_レ名_ノ月_ノ乃_レ種_ノ若_レ人_ノ今

杖_ノと_レ之_レ年_ノ乃_レ日_レく_レ之_レ新_レ清_レ也_レ水

極吟ひく仙人夢よ身はまゝ今
ふ乃命たりはくりに對する
心然と沙洲の瘠さる故一今
たりの心し 千石塔内水
わろろく事ナルカミ雷公乃怒りや今
新道より動く歌の詠
月は死次たぬは浦津味足ら
今

空人アホより移り背セをけり水
意あよ武士の夢に死ぬる今
松林自出たる古夢の影は
花の多ハカイコ蟻乃蟻カミ小様コサマの氷
深く燕澹暮風持衣剛

越柏塔

郁菴

ことり火や草に給らん虫跡 瓦
 沙曇一付 小妹のこゝろ 醫友
 滝乃夢詩人の律中 中分て 暎水
 至ふら月ハ心 忘乃透 春山
 麻中より馬も幾や事行も 言水
 乾く息に 名も 書けり 吟よ 菴

早コロ

物子れ一の乳神を異さうれ

越子田

臆草

舟^{タツル}進火ハ夕、^ハ海の家言水

子縮乃者に力むる民の習い今

秋風和く^{ヨク} ぬれよ、いれと茶

小語全に羽織物とる月の高今
乞りれて幾とさうと假橋水

伊ハ人々しきニ接ラ茶つと乎水
 一里以二里に如む古寺原
 月と海と空と東風明方よ如流立
 ういくの乳い志ぼり接り水
 雲に人師をれ海のせうなる
 冥燈ハうらね細れみわう茶
 恋の字に世をほいさわく為
 白髪

温泉^{イテユ}よりけうく女と人水
 折^ルふはこらむにわうくあ流^あ今
 辛皮ささむ庫裏れ淋^しと茶
 鞠色く庭ハ朧の月りり
 鳥一とく^くの棘れ 河水

言水

詠滅跡一流せり奈れ人の

猶也とて人居る筆乃下り枝梅山

長門秋

月の戸の千尋あまらに交健人今

心遊けきは四五日の夜水

かありあはる朝の玉子白の味今

風吹くともく、り梅もまゝ 船山

梅

三十七

水滸真り

テウツ

冬牡丹拵テウツ 花乃研テウツ

言水

雪テウツ 莫此勝可テウツ 次テウツ 蕙テウツ

水滸

新テウツ 色楊テウツ 瓜テウツ 蒜テウツ 此テウツ 常テウツ 小テウツ 燈テウツ 燈テウツ

藪テウツ 三テウツ りぬテウツ 葉テウツ はよテウツ い月テウツ の清テウツ 底テウツ 元テウツ

樽テウツ の清テウツ 多テウツ むテウツ のテウツ 一テウツ き片テウツ 庇テウツ 初テウツ 海テウツ

月テウツ 代テウツ 刺テウツ 多テウツ 風テウツ のテウツ 初テウツ 年テウツ のテウツ 幸テウツ 山テウツ

我より金はこゝろをたぐりて 爲玉
 二里一里とわかれは水 流せんと 枕筆
 平と化は病の抱しく 善原一 似極
 花はあつた 恋の志こゝろ多 不翠
 うらまへと成るうらまへのうらま ぬ
 和泉きこむと水 仙の去聲 水
 切りこころを愛の若くし 元

吾日瓜みくゆいん 傍家琴
 世のわりも河共舟此より下り山
 赤とくうり 眺何れせりささ
 郭とととれ多ゆうたは別や 翠
 月より夕夜の癖カタを片 飽 極
 去多ゆ秋歌の子瓜は極の来 琴
 萩と萩との文字を書合ヶ 山

納ナリの形ナリううここのぬぬええいいももかかーー玉
夕夕焼焼ろろととのの二二東東美美のの西西郷郷
二
ままのの水水決決ららぬぬ尾尾とと脛脛ををてて水
楊楊家家老老背背戸戸のの壁壁氏氏仕仕並並のの翠翠
其其事事ととははむむ男男麻麻比比角角袋袋 粧粧
冠冠ららうう紗紗くくももややササ平平元元
ううののここのの鏡鏡のの裏裏にに南南是是桂桂

いいののままううくく月月中中一一くく波波毒毒業業琴琴
ああららままささやや林林乃乃ははううりり子子ははららううここ山山
白白いいのの垂垂のの部部にに入入るる業業水水
水水漂漂ととままずず勢勢笈笈のの糸糸道道元元
背背ののううゆゆここののははややもものの麻麻姑姑子子山山
糸糸無無乃乃會會符符ををみみととかかうう呼呼るる聚聚
未未動動トト因因れれ志志れれくく唯唯孔孔玉玉

北辰の星影入て 神の内水
好むとて多し 和犬の尻柱
あやまるとも 歌のまじり 琴
格子のまじり 男史のまじり 繁
一河の風も 漆のまじり 舟元
説くまじり 迷の竹水山
唱念の中まじり 歌のまじり
育 柳

猫の夢とて 膝より眠らとて
地を和して 初雷に花のけし水
燈の二葉より 千歳乃春柱

洛陽掘川四糸角
書林 松葉軒室瓦衛門
本板



洛陽掘川

